



ジャパンラグビー最終戦に自衛隊がヘリで登場 1万4千人を沸かせる



静岡地本は5月5日（日）、ヤマハスタジアム（磐田市）で行われた静岡ブルーレヴズ対東芝ブレイブルーパス東京戦において、陸自第1師団第1飛行隊（東京都立川市）及び第1空挺団（千葉県船橋市）とともに広報活動を行った。

静岡ブルーレヴズは静岡県をホストエリアとするラグビーチームで、元日本代表の五郎丸歩氏がクラブ・リレーションズ・オフィサーを務めている（当時）。今回は同チームのシーズン最終戦ということもあり、会場には約1万4千人の観客が詰めかけた。

静岡地本は第1空挺団とともに、会場駐車場に広報ブースを開設。写真パネルで自衛隊の活動や空挺団の訓練の様子を紹介するとともに、軽装甲機動車などの車両展示、迷彩服や重さ20キロを超える落下傘の試着体験などを行った。

ブースにはチームのユニフォームを着た多くのラグビーファンが訪れ、迷彩服や落下傘を試着して記念撮影をしたり、車両の前に隊員から「この車も人と同じように航空機から落下傘で降下するんですよ」という説明を聞き、驚きの声を上げていた。

試合のオープニングでは、空挺団が第1飛行隊のヘリコプターでスタジアム上空に登場。観客が熱い視線を送る中、4人の隊員がロープを使って勢よく降下し芝生の上に降り立つと、会場に大きな歓声が響いた。

その後、地上で待機していた隊員と合流し、対戦する両チームの旗、そして空挺き章のマークをかたどった旗を掲げて手を振ると、満員の観客席からは割れんばかりの拍手が湧き起こった。



日米親善の祭典「黒船祭」に陸海空自衛隊が参加

静岡地本は5月16日（木）から19日（日）まで、下田市で開催された第85回黒船祭に参加し、祭りを盛り上げた。

16日は同祭で一般公開を行う海自の掃海艦「あわじ」が入港。下田市が主催する入港歓迎行事が行われ、市長等が特別公開に参加した。

18日の記念式典では、海自横須賀音楽隊が米軍の音楽隊とともに国歌などを演奏し、空自静浜基地のT-7初等練習機2機がオープニングフライトを行った。日米の代表者や海自横須賀地方総監、静岡地方協力本部長、陸自第34普通科連隊長、海自第1掃海隊司令、あわじ艦長などが参列した。

続いて行われた公式パレードでは、静岡地本マスコットキャラクター「しずぼん」も小型トラックに乗って登場し、伊東地域事務所長の高木淳規3等海佐とともに自衛隊と自衛官募集をアピールした。

自衛隊のメイン会場となった外ヶ岡岸壁では、「あわじ」の一般公開と陸自第34普通科連隊の車両展示、静岡地本の広報ブース開設を行った。一般公開には2日間で2660人が訪れ、艦橋や掃海任務で使用する装備などを興味深く見学した。

最終日の19日はあいにくの雨模様となったものの、下田小学校体育館で日米親善綱引き大会が開催された。地元企業や高校レスリング部、海上保安庁に加え、米軍2チームと掃海艦「あわじ」チームが参戦し、9チームがしのぎを削った。

決勝戦は海上保安庁対掃海艦「あわじ」という海の平和を守る2チームの戦いとなり、米軍の熱い声援を受けた「あわじ」チームが、耐久後に一気に引く作戦で見事勝利を収めた。



体験型企業説明会で新隊員が経験語る

三島所は5月1日（水）、三島学園知徳高等学校（長泉町）で開催された体験型合同企業説明会に参加した。

この説明会は、生徒がさまざまな職業の話聞き、実際に仕事で扱う道具に触れたり仕事を体験することで、職業選択の参考とするため行われたもの。自衛隊を含めた14の企業・団体等が参加し、自衛隊のブースには合わせて25人の生徒が訪れた。

三島所の広報官2人のほか、今年3月に同校を卒業し、現在は板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）の新隊員教育隊で訓練に励んでいる高野滉大自衛官候補生が講師として参加し、生徒たちに自衛隊の活動や、自衛官になるための教育訓練の大変さ、面白さ、やりがいなどを伝えた。

生徒からもさまざまな質問が寄せられ、「自衛隊に入隊して大変だなと思ったことはなんですか」と聞かれると、高野自衛官候補生は「生活環境に慣れることと、10キロ行進が大変でした。でも、さまざまな年齢の人と同じ部屋で共同生活をするので、打ち解けるのも早く、今は楽しく生活しています。10キロ行進は大変でしたが、入隊すると自衛官として必要な体力を少しずつつけることができるので、何とか乗り切ることができました」と自らの経験や感じたことを語った。

その後、陸上自衛隊の小型トラックの見学や海上自衛隊の手旗信号体験を行い、生徒たちは「自衛隊の車かっこいい」「手旗信号、やってみると意外と面白い」と自衛隊の仕事に興味を示していた。



合同医大等説明会で防衛医科大学校をPR

清水所は5月18日（土）、清水東高等学校（静岡市）で行われた合同医大等説明会に参加した。

この説明会は2年生とその家族40組48人を対象に行われ、3つの学校と県の医療課がそれぞれ約30分の説明を行った。

各学校が特徴や特性を紹介し、併せて県から奨学金制度の説明もあり、学生と家族は今後の進路や将来を見据えて熱心に耳を傾けていた。

防衛医科大学校の回では、清水所長が同校の概要を説明するとともに、自衛隊に医者が必要なのか、カリキュラムの内容、卒業後の活躍の場など、同校で学び自衛隊で働く魅力を伝えた。

募集情報のご提供よろしく申し上げます！



海・空のパイロットを目指す
航空学生

7月1日～9月5日受付

海：18歳以上23歳未満(高卒者見込含)
または高専3年次修了者(見込含)
空：18歳以上21歳未満(高卒者見込含)
または高専3年次修了者(見込含)

各部隊の中核を担う自衛官
一般曹候補生

7月1日～9月3日受付

18歳以上33歳未満の者
(32歳の者は、採用予定月の末日現在、
33歳に達していない者)

柔軟に将来を選択できる任期制
自衛官候補生

通年受付

18歳以上33歳未満の者
(32歳の者は、採用予定月の末日現在、
33歳に達していない者)

各自衛隊の幹部を目指す
防衛大学校学生

7月1日～10月17日受付(一般)

18歳以上21歳未満の者
高卒者(見込含)または高専3年次修了者
(見込含)

自衛隊の医師を目指す
防衛医科大学校医学科学生

7月1日～10月9日受付

18歳以上21歳未満の者
高卒者(見込含)または高専3年次修了者
(見込含)

自衛隊の保健師・看護師を目指す
防衛医科大学校看護学科学生

7月1日～10月2日受付

18歳以上21歳未満の者
高卒者(見込含)または高専3年次修了者
(見込含)

三島市内の3中学校で防災教育を実施

三島所は5月1日（水）に三島市立北上中学校3年生127人、5月10日（金）に三島市立南中学校1年生172人、5月22日（水）に三島市立北中学校2年生204人に対して、「いのちを考える日」の一環で防災教育を行った。

「災害における自衛隊の活動」「発災時に自分の命を守る」「地域の防災。周りの力になる」「避難生活を乗りきる」「避難所で中学生にできること」の5つのテーマを軸に、災害時に重要となる「自助・共助」について伝えた。また、もし事態の当事者になってしまった場合に役立つ知識として、2人で手を繋いで人を運ぶ徒手搬送、毛布を使った応急担架の作り方、はさみを使わないナイロン紐の切り方などの体験を行った。

生徒たちは真剣な表情で自衛官の話に耳を傾け、「自助・共助の大切さを知った」「地域の防災訓練へ積極的に参加したい」といった感想が寄せられた。



北上中学校



南中学校



北中学校



磐田東高校卒業生が戦闘服姿で母校訪問

袋井所は5月7日（火）、磐田東高校（磐田市）の母校訪問に同校卒業生の隊員を引率した。

袋井市担当広報官の中島1等陸曹と磐田市担当広報官の菊地2等陸曹引率のもと、今春、板妻駐屯地の教育隊に入隊した山本大希自衛官候補生が戦闘服に身を包んで約1カ月ぶりに母校の正門をくぐった。

進路担当教諭と面会し、最初は生活環境の違いに苦労したが、今では慣れて楽しく過ごしていること、週末は外出等もできること、入隊してから1カ月と短い間ながらも、同期との絆が深まってきたことなどを報告した。

教諭からも普段の生活や訓練の様子などについて質問があり、笑顔で話す山本自衛官候補生を見て「自衛隊に入隊して、心も体もたくましくなった」「戦闘服姿や元気に生活している様子を聞くことができてうれしい」と感想を話していた。

山本自衛官候補生は「自衛隊のことを知ってもらうことができ良かった。後輩にもどんどん受験してほしい」と嬉しそうに話していた。



力を合わせて各校文化祭で自衛隊をアピール

浜松所と浜北所は6月8日（土）、浜松市に所在する浜松日体高校、浜松学院高校、浜松開誠館高校の各文化祭に参加した。

当日は晴天に恵まれ、各校は多くの来場者で賑わった。浜松日体高校「日体祭」では、第34普通科連隊の協力を得て軽装甲機動車と高機動車を展示したほか、防災用スティックライスの試食を行った。レトルトパウチ入りのスティックライスは「五目ごはん」「そばめし」「ベーコンバター」など種類豊富で、試食した高校生からは「意外としっかりした味と食べ応えで、おいしい」と高評価だった一方、量に関しては「できればもっと食べたい」といった食べ盛りの高校生らしい感想も聞かれた。

浜松学院高校「橘花祭」では、自衛官の制服などを試着できる体験や自衛隊グッズがもらえるミニゲームを行った。浜松開誠館高校「真澄祭」では同じくミニゲームのほか、自衛隊の活動などを紹介する写真パネル展示を行い、どの学校でも自衛隊ブースには人だかりや長い行列ができ、高校生や来場者がめったにできない体験に目を輝かせていた。



浜松学院高校



浜松開誠館高校



浜松日体高校

今年1月の予備自衛官招集訓練の際に突然参加のお話をいただき、『はたして自分が適任だろうか?』ととても驚きましたが、陸上幕僚長本人より予備自衛官動続20年の表彰をいただけるのは大変光栄な機会ととらえ参加を決定しました。予備自衛官となつてから初の特別な招集訓練の参加でしたが技能公募予備自衛官の方も半数ほど参加されており、全国の予備自衛官との訓練は、静岡県での訓練とは少し違った緊張感が漂っていました。

訓練は、機能別訓練から総合訓練と段階的に移行、人命救助システムの取扱訓練、現地想定訓練ではヘリでの移動から現場での救助訓練と今まで体験したことのない貴重で充実した内容でした。永年動続表彰式は防衛省で行われ、陸上幕僚長より直接表彰と賛辞をいただき大変光栄でした。また、陸上幕僚長の不動の姿勢はとても凛々しく感銘を受けました。予備自衛官制度創設70周年祝賀会では、防衛大臣をはじめ防衛省の上官の方々が多数列席されており、私はこの場に分不相応ではないかと恐縮していましたが、身に余る祝辞をいただき生涯の良き思い出となりました。

最後に、本訓練を通じ一般・技能公募予備自衛官の方々の自衛隊に対する意識の高さを身に染みて感じました。私も元自衛官としてただ訓練に参加し続けるのではなく、自衛官を志した時のように意識を変えて日々努力していきます。今回の訓練や祝賀会等を担任していただいた方々に厚く御礼を申し上げます。



総火演研修



野宴



陸上幕僚長訓示



総火演研修



記念祝賀会



訓練風景

部内異動

▽ 静岡所長 1等陸尉 成清 隆太
(援護課) 4月23日付

▽ 募集課 2等陸尉 伊藤 通孝
(静岡所長) 4月23日付

▽ 総務課 陸曹長 早田 高士
(静岡所) 5月15日付

退職

▽ センター 2等陸尉 松元 勇介
5月31日付

静岡地本 7、8、9月 主要行事予定

7月

- 7日…予備自1日間訓練(地本)
- 13~14日…4機関合同説明会(中部)
- 16日…自衛官候補生試験(WEB)
- 17日…県自衛隊合同企業説明会
- 20日…自衛官候補生試験
(口述・身体検査)
- 4機関合同説明会(東部)
- 21日…4機関合同説明会(西部)

8月

- 2~6日…予備自5日間訓練(駒門)
- 3~4日…清水みなと祭り
- 4日…予備自1日間訓練(駒門)
- 6日…予備自地本行事(駒門)
- 23~27日…予備自5日間訓練(滝ヶ原)
- 25日…予備自地本行事(滝ヶ原)

9月

- 15日…予備自1日間訓練(板妻)
- 13~17日…予備自5日間訓練(板妻)
- 16日…航空学生1次試験
- 20~21日…一般曹候補生1次試験(WEB)
- 24日…自衛官候補生試験(WEB)
- 28日…自衛官候補生試験
(口述・身体検査)